

日本遺産認定

いずものくに  
出雲國たたら風土記  
～鉄づくり千年が生んだ物語～



鉄の道文化圏推進協議会  
(島根県安来市・奥出雲町・雲南市)

## たたら製鉄の幕開け



島根県東部の出雲地方では、約1400年前から「たたら製鉄」と呼ばれる砂鉄と木炭を用いる鉄づくりが盛んに行われていました。

なかでも奥出雲地域には、良質な砂鉄と燃料の木炭を得るための森林が広大であったため、製鉄技術者が集まってきました。



金屋子神話は、鉄づくりの神「金屋子神」がシラサギに乗ってカツラの木に舞い降り、製鉄の技術を授けたという神話です。

安来市広瀬町には「金屋子神社」の総本社があります。

## たたら製鉄を支える人々と環境



棚田の中に点在している小山は、山を切り崩す際にお墓など神聖な場所を削らずに残したものです。



奥出雲地域の棚田は、たたら製鉄のための砂鉄を得る際に山を切り崩した跡地を、田んぼとして整備したものです。砂鉄を採取するための水路は、今や農業用水として利用されています。

製鉄の原料となる砂鉄と燃料の木炭は、「山内」と呼ばれる製鉄工場に集められました。山内は、たたら製鉄の従事者だけで構成される100人から200人規模の小さな鉱山町です。雲南市吉田町には、「菅谷たたら高殿（製鉄所跡）」とその周囲の山内の様子が日本で唯一現存しています。

菅谷たたら山内

## たたら製鉄によりもたらされた文化・産業



たたら製鉄で生産された鉄の交易によって、人の往来が増え、全国各地の文物がこの地にもたらされました。

鉄の集積地となった港町・安来は、人々が交わる拠点となり、各地の民謡の影響を受けて「民謡安来節」が生まれました。

また、奥出雲町に今も続く「大呂愛宕ばやし」は、京都の「祇園祭り」の様子を模していると言われています。

さらに、製鉄業で財をなした鉄師たちの邸宅には豪華な茶室や庭園が残っています。

たたら製鉄は、単に鉄をつくっただけでなく、地域産業の発展を支えながらも格調高い文化をはぐくんでいたのです。

## たたら製鉄が紡ぐ持続可能な社会



たたら製鉄は、産業としては100年ほど前に終焉を迎えましたが、その技術は今も絶えることなく世界で唯一この地で伝承されています。港町・安来は今や全国有数のハガネの産地へと発展し、たたら製鉄の技術を受け継ぐ高級特殊鋼「ヤスキハガネ」が現代のものづくりを支えています。また、砂鉄採取により拓かれた耕作地では全国に名高い「出雲そば」や「仁多米」を育み、多くのファンを魅了しています。

今もなお、この地は先人がたたら製鉄千年の歩みの中で生み出した特徴豊かな地域の文化と産業、自然景観に満ち溢れ、終わることのない物語を紡ぎ続けています。

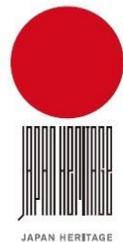


スサノオのヤマタノオロチ退治神話は、オロチを砂鉄採取の影響で氾濫する川になぞらえ、退治したオロチから取り出された剣を製鉄の象徴に、イナタヒメは砂鉄採取の跡地に拓かれた稲田に見立てて語り継がれています。今は神楽を通じて神話の世界を体感することができます。



文化庁認定 日本遺産について

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図ることを目的とした制度。



—2016年4月—

鉄の道文化圏推進協議会

公式サイト <http://tetsunomichi.gr.jp/>

(事務局 島根県雲南市役所商工観光課 電話 0854-40-1054)